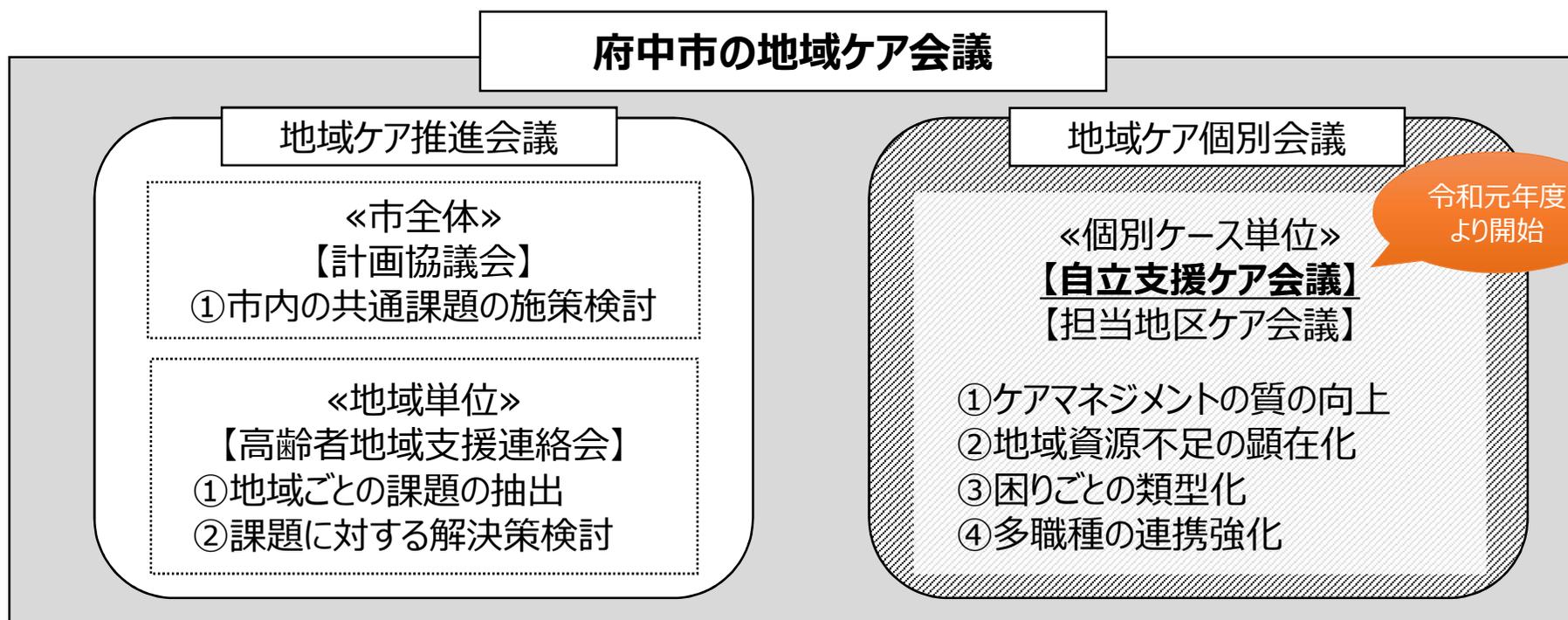


# 自立支援ケア会議 実施報告 (西部地区)

# 府中市の「自立支援ケア会議」の目的

- 総合事業サービスCの利用を前提とするケアマネジメントへの支援を通じて、本人が介護保険サービスが必要としない生活を送れるように支援し、また、ケアマネジャーの自立支援に資するケアマネジメント力を向上させる。
- 本人が抱える課題の検討を通じて、課題に対する有効な支援方法を積み重ね、地域全体のケアマネジメントの質の向上につなげる。また、検討後に残った課題を蓄積することで、地域に共通する課題の発見につなげる。
- 検討の積み重ねから、関係者間の自立支援に関する規範的統合を図り、連携を強化する。



# 総合事業サービスCの概要①

## 【事業が目指す方向性】

保健・医療の専門職による集中的な介入による機能改善や、「生活習慣と地域とのつながり改善」を図るプログラム。介護保険サービスに頼らない在宅生活を支援するモデル事業とする。

## 対象者

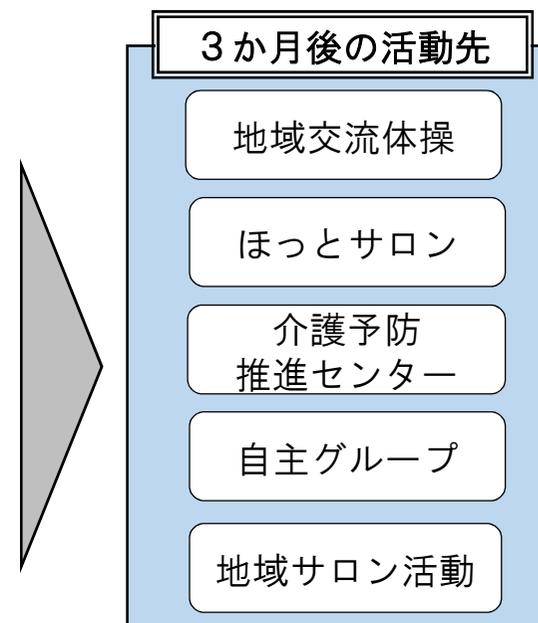
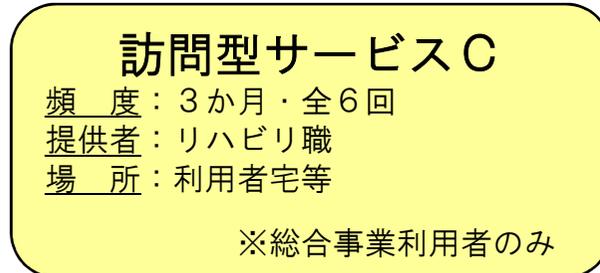
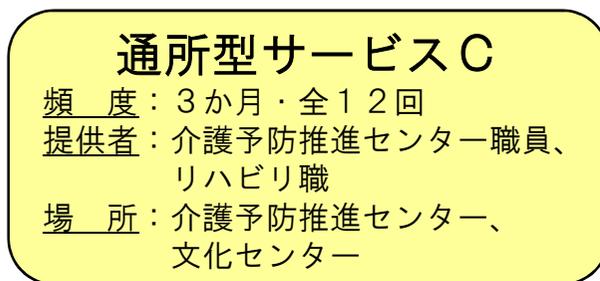
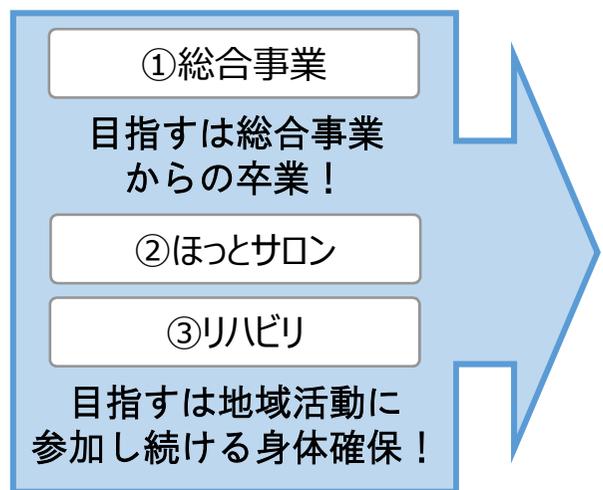
サービスCによる機能改善や地域とのつながり改善などの改善意欲が見られる次の方

- ①総合事業（訪問型サービス・通所型サービス）利用者
- ②ほっとサロン利用者のうち、介護保険サービスへの移行を検討している方
- ③医療機関のリハビリ利用者のうち、介護保険サービスへの移行を検討している方

## 推薦者

地域包括支援センターに所属するケアマネジャー

## 実施の流れ



## 総合事業サービスCの概要②

### 通所型サービスC

#### 【内容】

介護予防推進センターのフレイル予防教室を基本にして個人の状態に合わせて実施

- ・ 事前、事後における体力測定及びリハビリ職による状態の確認
- ・ 自重による筋力トレーニング
- ・ 食事や栄養、口腔機能、水分摂取に関する講座
- ・ 通所時間帯以外の運動記録

#### 【期待している効果】

- ・ リハビリ職の予後、予測の見立てによる状態の把握
- ・ 一定程度の機能改善
- ・ 地域での活動を知り、3か月のサービス終了後の活動場所を見つけ出す

### 訪問型サービスC

#### 【内容】

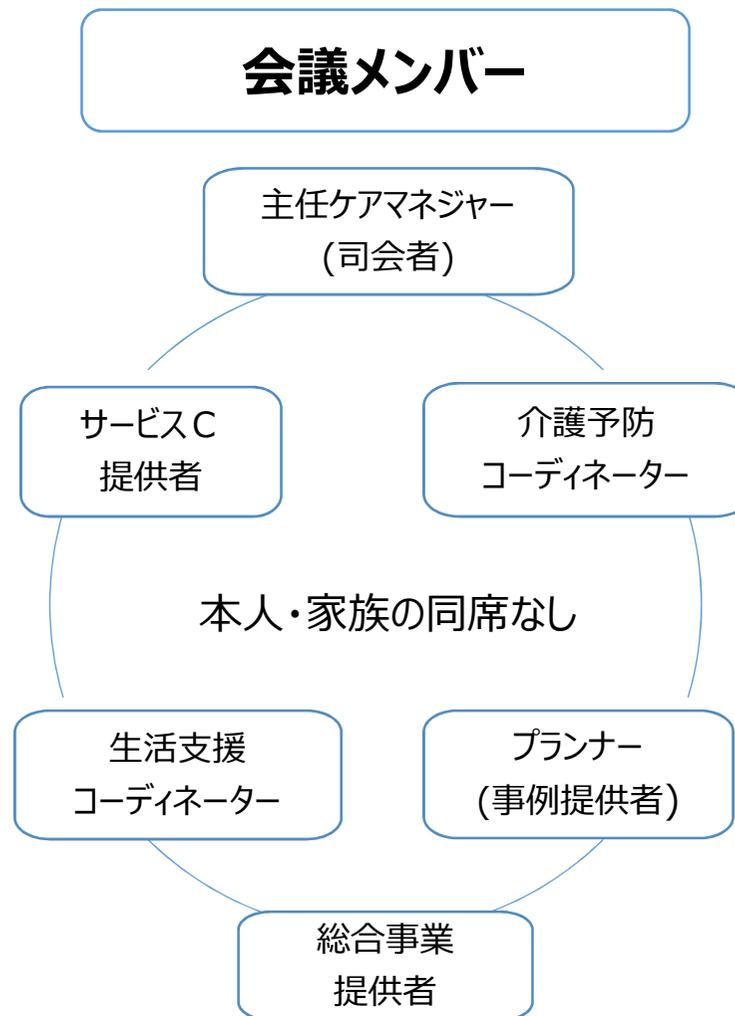
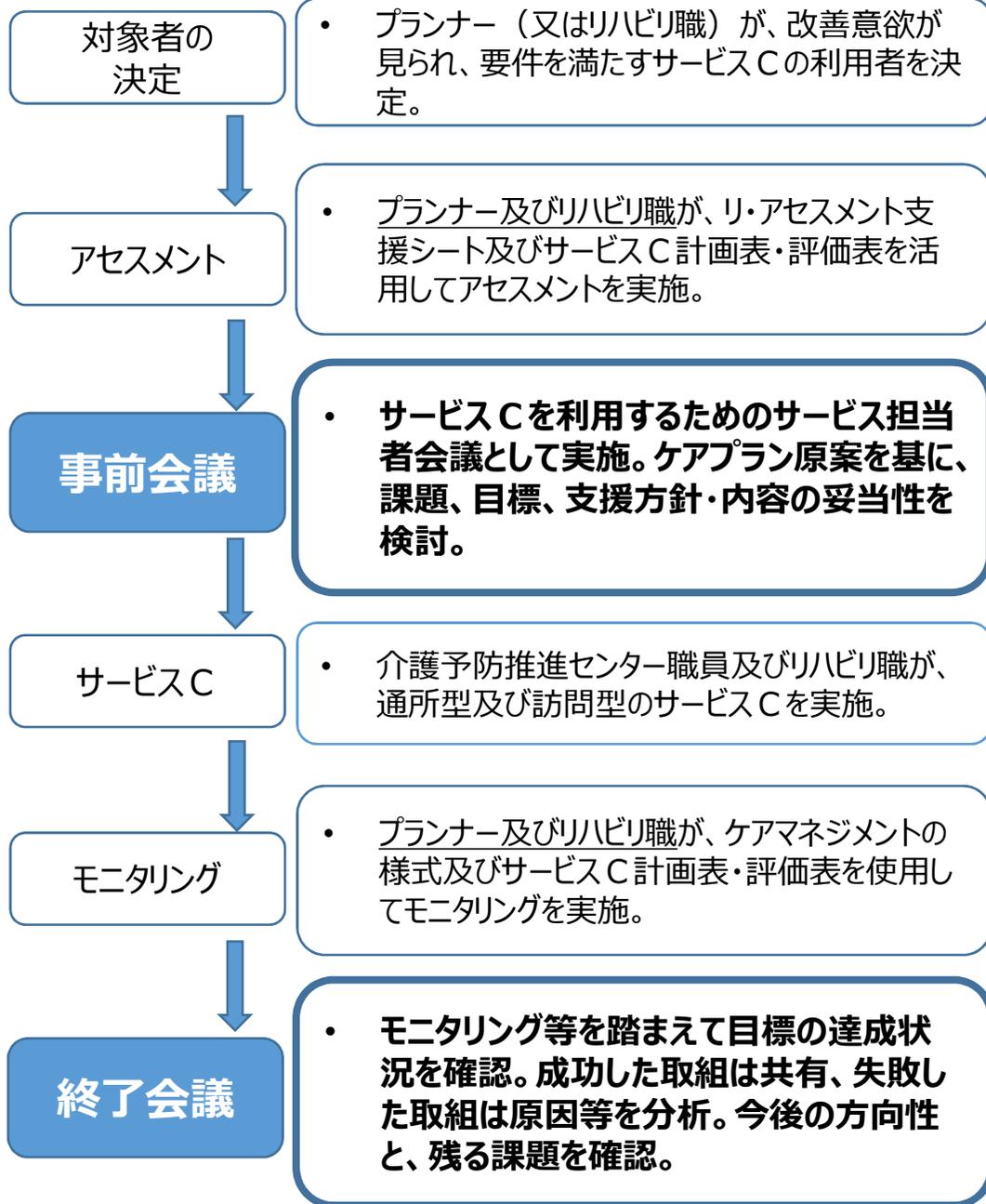
個人の状態に合わせて提供内容を決定、実施

- ・ 対象者の身体状況や生活環境の把握
- ・ 自宅での運動メニュー等の個別プログラムの提案
- ・ 住環境や外出環境において障害となっている箇所の把握
- ・ 介護予防の効果を理解し、自らの状態に対して自信を深めるための動機付け

#### 【期待している効果】

- ・ 通所型サービスでは把握できない日常における課題の把握及びその解決
- ・ 地域の介護予防事業等に参加することで健康維持ができることの自信をつける
- ・ 心身機能の維持回復に必要な運動や生活環境への理解の深まり及び主体的な取組
- ・ 住宅改修制度等を用いた住環境の改善によるホームヘルプサービスの見定め

# 実施の流れ



※総合事業利用者の場合のみ

※適宜、市民活動支援センタープラッツ職員も出席し、本人の状態を踏まえて、サービスC利用終了後に参加するとよい自主グループ活動を紹介する。

# まとめ

## 得られた効果

※（対応する事例番号）

- ・対象者の生活行為の課題が明らかとなった（6,10）
- ・生活行為の低下状況とそれに関連する要因分析ができた（1,5）
- ・運動を行う場合の注意事項や具体的助言が得られ、安全な自立支援につながった（3,9）
- ・対象者のセルフマネジメントの意識が高まった（1,4,10）
- ・住宅環境の改善につながった（2）
- ・対象者の残存能力を活かした助言により、家庭内の役割を再確保ができた（8）
- ・新たな通いの場につながった（2,3,4,7,8）

## 今後の課題

### ＜資質の向上＞

身体機能の自立度が高く、外出するうえでの課題はないものの、地域への参加につなげることができず、なかなか介護保険サービスの卒業につながらなかった → 担当ケアマネジャー等が引き続き支援していきなかに卒業に対する意識を促していき、地域の活動の場につなげていく

### ＜インフォーマルサービスの充実＞

既存の地域資源につなげていくとともに、新たに開発が必要だと判断されるものについては生活支援コーディネーターと介護予防コーディネーターが連携して場の開発を進め、対象者のニーズに合わせた地域の場の情報提供を可能にしていく